

2014年(平成26)3月

カルメル  
**霊性センターニュース**



聖母子 1410 南チロル マリアンベルグ修道院

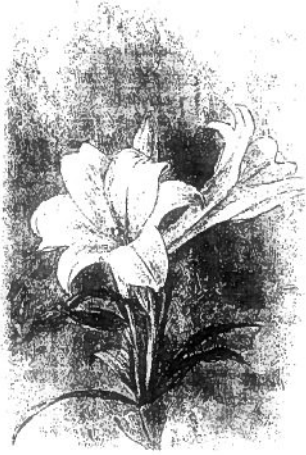
**2014年3月**

**296号**

## 目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
諸所の企画案内	37
年間購読(郵送)のご案内	48
編集後記	49

# 心の泉





## 第二卷

### 第三章 平和を愛する善良な人

#### 3 忍耐なしに平和はない

自分のうちに平和を保ち、他人とも平和を保つ人々がいる。ところが、自分のうちに平和をもたず、他人の平和もかき乱す人々もいる。この人たちは、他人の重荷でもあり、またそれ以上に自分の重荷である。また、自分のうちに平和を保つだけでなく、他人をも平和に導こうと努める人々もいる。ともあれ、このみじめな人生において、私たちは、不幸を避けることよりも、謙虚に苦しむことに、平和を見いださなければならない。よく忍耐することを知っている人は、よく平和を保つであろう。これは自分自身に勝利を得た人であり、この世の主人、キリストの友人、天を受け継ぐ者である。

### 第四章 心の清さと意向の正しさ

#### 1 単純で清い者でありなさい

人は、世俗から離れて高くかけ上がるために、二つの翼を持っている。それは単純さと心の清さである。意向は単純、感情は清くなければならない。単純さは私たちが神に近づけ、清さは神を得させ、神を悟らせる。あなたの心がふしだらでなく、あらゆる執着から解き放たれているならば、どんな善業をするのもむずかしくはないであろう。あなたが、神のみ旨と隣人の利益以外に何も目的を置かず、何も求めないなら、心の自由に恵まれるであろう。あなたの心が素直であれば、どんな被造物もあなたにとって、いのちの鏡となり、聖なる知識の本となる。どんなに小さな卑しい被造物でも、すべて神の慈悲をあらわしているのである。

## 日々神と親しく生きるには —3—

三月の月がはじまりますとたちまち灰の水曜日…そして四旬節がはじまります。信仰年を終えた今年もまた元気に、またはあえぎながら約束の地を目指して四十日間の荒野をご一緒に歩いてまいりましょう。

### 第6留 一人の婦人、イエスのみ顔をぬぐう

乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように この人は主の前に育った。  
見るべき面影はなく 輝かしい風格も 好ましい容姿もない。  
彼は軽蔑され 人々に見捨てられ 多くの痛みを負い 病を知っている。  
彼は わたしたちに顔を隠し わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。



エルサレム・聖墳墓教会・十字架の道行き

イエスは、こうして歩いていかれる。  
あざけりはやむことなく、兵士達の暴力もやむことはない。  
ところが、そこに一人の勇気ある女性があらわれる。  
家から出て、近づくことができないため、イエスに布きれをなげてよこす。  
イエスは、その布を広い、顔と手をぬぐわれる。  
血と汗にまみれた、その顔を。  
布は 女に返され、女は 宝物のようにその布を持ち帰る。  
家に帰ってみると、布の上には イエスの面影が写しだされていた。  
それが、女の勇気ある行為 愛のわざの報い。  
イエスよ、わたしたちのうちにも、あなたの面影をきざみこんでください。  
愛と苦しみの面影を。

～幼きイエスのマリー・エウジェンヌ～

伊従 信子  
ノートルダム・ド・ヴィ

## 人を赦す (6)

くのり 彰

聖テレジアが言う「人より上になりたいという動き」は、だれの心にもある。だが、それに「こだわったり、口にしたりするようなことがあれば、まったくのペストです」と言っている。ところが、実際の話、この世では（教会や修道会の中でも）この手の話しかしていないというのが現実ではないだろうか。つまり、この世では、ノロウイルスやインフルエンザどころではない。この目に見えないペストが蔓延しているのである。

学校で成績を上げること、会社で業績を上げ、昇進すること。学問や芸術やスポーツなどの各分野で、人よりぬきんで、高い評価を得ること。この最たるものは、ノーベル賞や金メダルであろうか。ノーベル賞や金メダルが悪いと言っているのではない。ただそこに、落とし穴があるということである。神の前に立つことを忘れ、優れた人間の業績や結果を人間同士が賞賛し合う中で、この世の価値観がすべてとなるからである。

そこまで行かなくとも、私たちは、平凡な日常生活の中で、人と人を、あるいは人と自分を、絶えず比較し、能力の優劣、技術の上手下手を評価している。五官で捉えられる人間の容姿や活動の一切切が評価の対象となる。評価の対象とならないものは何一つない。

しかし、この人間の地平での評価にとらわれる時、私たちはコンプレックス（複合感情）の闇の中に落ち込んでいくことになる。

そのとき、弟子たちはパンを持ってくるのを忘れ、舟の中には一つのパンしか持ち合わせていなかった。イエスは、「ファリサイ派の人々のパン種とヘロデのパン種によく気をつけなさい」と戒められた。弟子たちは、これは自分たちがパンを持っていないからなのだ、と論じ合っていた。（マコ 8・14-16）

人生を船旅に例えれば、私たちの気遣いは日々のパン（衣食住の象徴）に集中している。しかし、注意すべきは、私たちの心の中にある、目には見えない「ファリサイ派の人々のパン種」と「ヘロデのパン種」であると、イエスは言う。前者は人からの評価を求める名誉や名声への欲望であり、後者はこの世の富や権力を求める欲望であろう。あつという間に、これらのパン種は、ふくれあがり、私たちの心を占有することとなる。



## 年間第8主日 (A)

みことばのひびき

(マタイ6:24~34)

神はいつも人々に対して、そして自分の約束に対して忠実です。私たちが神から目をそむけ、自分自身や、人や、お金や、物質的なものに頼るときでも、神は私たちを見捨てず、忠実であり続けてくださいます。全てが失敗でも、私たちは私を待っていてくださる神がおいでになるという確かな希望を持っています。

本日の福音では、人は二人の主人に仕えることはできないというイエスの強い言葉で始まります。イエスはきっぱりと「あなたがたは神と富に同時に仕えることはできない」と言われます。真の弟子は、分割しない信仰が要求されます。分割した忠誠心は遅かれ早かれ不幸になります。イエスは説教の中で、人は神と富に仕えることはできないと強調されます。とはいえ、イエスが物質的なものを持つことを批判しているのではありません。問題なのは物質的なものに対する態度です。それらにどれほど価値をおいているか、生活をそれらに支配されていないか、とりわけ、援助を必要としている人たちに分け与えることができるかということです。私たちはお金や権力を持っていれば、自分の生活をコントロールできるという誤った幻想を持ちます。イエスは結局、私たちの唯一の真の保証は、私たちに対する神の愛への信頼であると教えています。お金はもともと生活の必需品を得るための交換手段です。問題は、お金それ自体が目的になってしまうときに始まります。イエスは、私たちの人生の中で一番価値のあるものは何であるかをよく考えるように弟子たちに求めています。人生に対する神の考え方をとるか、お金や物質的所有をとるか、どちらをとるかの選択をしなければなりません。それらは両立できないものです。それらは人生の中で相容れない到達点と、人生で何が一番重要であるかということに対して異なった見方を伴っています。真に物質的な人がキリスト教の訓練を受けることはできるかもしれませんが、真に献身的なキリスト者になることはできません。

イエスは更に思いわずらいは神への不信であると言われます。キリスト者は豊かな神の愛に信頼していますから、思いわずらうことはあり得ません。イエスは、思いわずらいをどのようにして克服するかについて教えています。第一に、神の御国に集中することです。神の意志を完成し、神の教えに従って生きることです。神の深い愛は全ての思いわずらいを取り去ります。第二に、イエスは明日について心配しないで一日ずつ生きれば、思いわずらいはなくなると言われます。毎日その日が来るから生き、仕事があるから行うならば、一日の総計はよいものになるはずで、もし未知の未来のことを心配するならば、何も起こらず、何の変化ももたらさないでしょう。イエスは神への信仰について、富や物質的な所有物に頼らないことについて教えています。私たちは世界中に蔓延する貧困に気づき、それに関心を持ちます。私たちが必要なのは信仰であり、神の摂理への強い信頼です。全ての人にとって、山上の説教のこの箇所には、深い励ましがあり、大きな信仰への呼びかけがあります。それは神への信頼を要求します。神は、私たちがどれほど小さくどれほど取るに足りない者であっても、必要なもの全てを備えてくださいます。神は私たちに対して素晴らしい計画を持ち、私たちを大事にしてください。困難な時でも、神が無関心であるように思えるときでも、主に信頼をおき、神の御国へ集中することができます。

(Sr. Paulina)

「イエスは悪魔から誘惑を受けるため、霊に導かれて荒野に行かれた」(マタイ 4, 1)。

四旬節の主日の歩みは、毎年、砂漠での悪魔の誘惑への言及で始まります。試みは、共観福音記者たちが、イエスの公の活動の始まりを結び付けている体験であり、イエスの宣教への導入として、偉大な独創的な意義を持つ、と言えます。その意義の一つは、砂漠での四十日の断食には、エジプトからの脱出でのヘブライの民の四十年間の旅路へのはっきりとした関連付けを読みとることができることです(参照 申命記 8, 2)。確かに、特にマタイ福音書では、イエスのうちに、選ばれた民の体験が、生き直され、そして、より高いものに変容されていることに、立ち会う機会は少なくないのです。

すでに、イエスは聖霊に導かれて砂漠に退くとの事実そのものが、ご自分の福音の宣教活動の開始に先立ち、ご自分が誰であり、実現しようとするものがなんであるか、をより明瞭にするために重要なものです。神の前の、また、隣人との出会いでの人間の真実な姿、自己実現に、人間たちを導き、真実な自己の価値、意義を発見させ、体験させること、これが、イエスの目指すものではないでしょうか。創世記のテキストによると、人間は、自分の真実の意義の発見、自己実現の道を歩もうとして歴史の中の歩みを始めました、がしかし、ひとつの神の禁止の言葉、自分の欲求を制御する言葉を聞き取る際に、悪魔の誘惑で、誤解してしまいました。イエスの誘惑の記述においても、出発点は神の言葉、その約束、その命令に身を委ねるか、否か、にあります。この命令を、人間を完成に導く愛の言葉として受け取るのか、あるいは、人間を抑圧するものとして聞くのか、ここに分岐点があります。イエスは、徹底的に、十字架の死にいたるまで、神の言葉に聞き従ったのです。興味深いことは、「悪魔」とは、分割するもの、「試みるもの」と定義された邪悪な勢力とされていますが、その狡猾さが現れるのは、禁止を含めて、神の命令を、その愛の心から、分割、分離させ、そして、神の命令を人間が自分の近視眼的視野、判断力の範囲内で把握できる意味に縮小解釈させることに現れています。イエスは、十字架の上で、死のときにも、自分の人間としての限界を超えて、父に自分を委ね、人間の犯した罪の赦しと、新しい可能性を開いたのです。人間は、神の言葉が課す禁止にのみ注目し、神の愛から、この言葉を分離、切断しました。ここに、悪魔の誘惑に負け、罪に始まりを与える隙があったのです。ルカ渡辺幹夫



## 四 旬 節 第 二 主 日 (A) (マタイ 17: 1-9)

今日の朗読は、わたしたちに向けての聖性への招き、その真の偉大さ、神に対しての信仰と信頼、そしてすべての人に神が準備しておられる究極の栄光について語っています。わたしたちは神に出会い、神に招かれその語られることを聴き、これに応える心を求められます。四旬節第二主日を迎えた今、わたしたちは光栄ある過ぎ越しの神秘を準備するために心の糾明に努め、回心し、いつも主と共にいられるように努めるべきです。今日の福音は主のご変容の出来事を語り、神がわたしたちの生活に深く関わってくださることを印象付けます。イエスは受難と十字架上の死を前にして、弟子たちがゆるぎない信仰を持ち続けていけるようにと、ご自分が神であること、その神性をはっきり顕されました。

マタイは主のご変容の美しい出来事を記します。イエスは愛する三人の弟子、ペトロ、ヤコブ、ヨハネ、を連れて高い山に登られ、彼らの目の前で変容されました；顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなりました。神から十戒を受けたモーセとイスラエルの偉大な預言者エリアが現れ両側で、イエスの受難と死について語り合っていました。イエスにとってこれは特別の瞬間でした；イエスがエルサレムを愛おしく思われその愛おしさのために引き受けて下さる受難と死なのです。これはまたイエスが選ばれた親しい弟子たちを鼓舞するための大切な時でもありました。“これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け”と雲の中から聞こえる御父の声によってご自分が神の御子であることを明らかになさいます。イエスの宣教活動開始の時に、ヨルダン川で洗礼を受けられたときにも同じ御父の声が響きました。イエスのご変容は、イエスがすべての人を照らす真の光である証しであり、また神であり天の王であるイエスを前もって知らせる出来事でもありました。

この体験はこの上なく素晴らしいものでしたが、“人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない”とイエスは弟子たちにお命じになりました。というのは、当時世は、立法と預言の時代に幕を下ろすイエスを十分に理解していなかったからです。みことばを聴くとき、御父は今もなおイエスが愛する御子でありその方の教えに従うようお命じになります、イエスは永遠のいのちのみことばだからです。弟子たちにとっても、イエスの変容の栄光は十字架というとんでもなく恥ずべき出来事を受け入れる心の準備となりました。主の復活を経験した後、彼らはこれを理解することができました。今わたしたちは日常生活の様々の苦しみ、辛さを超えてこの栄光の神が現存しておられることを経験し確信しましょう。心からみことばを聴き、それを実践するように努めましょう。主を喜ばせ、主を愛するために。

(Sr. Paulina)

「イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである」(ヨハネ 4, 6)。

イエスとサマリヤの婦人との出会いの始まりです。「ヨハネによる福音」には、もう一度、「ピラトは、・・・イエスを外に連れ出し、・・・裁判の席に着かせた。それは過ぎ越し祭の準備の日の、正午ごろであった」と、「席に着かせる、座らせる」と「正午ごろ」が組になって現れる場面があります。ここでは、裁かれ、死刑宣告されるイエスが、実は、すべての人を最終的に裁く方であることに、焦点があてられています。それで、今日の福音でも、イエスが井戸のそばに座っておられる、それは、一杯の水を求めてと言うよりは、裁く、審判するためであると、分かります。裁かれるのは、イエスが水を求めたサマリヤの婦人であり、始めには、婦人の方が主導権を取り、裁く側にいますが、裁きの権威はイエスの手に移っています。裁きは、婦人の手の中にあつては、人を断罪し、水といったような生命に必須なものの与奪権を自分の恣意で自由にできると思い込ませます。しかし、裁く権能は、イエスの手の中に移ると、それは、もはや、人間を過去に犯した罪の中に閉じ込め、未来永劫に罪人との状態に断定するものではなく、むしろ、深いところから人間を癒し、解放するものとなります。イエスによって裁かれる、それは、自分の犯した悪に直面させられることではありますが、その自分を真摯に認め、罪を告白し、イエスの手にすべてを委ねるとき、その行為そのものを支え、完成させてくださるイエスによって、赦し、和解、新しい交わりの中に生かされている自分を発見することになります。イエスの裁きは、断罪し、切り捨てるものではなく、癒し、新しいものとして立ち上がらせるものなのです。

イエスは、良い羊飼いのように、この一人の女を待ち伏せるかのようにして待っていました。「神の子でありながら」、旅に疲れるような「受肉の愚かさ」を身に引き受け、その行き着くところは、十字架の上の死、しかし、その死は、裁きが罪の中への固定化ではなかったように、死も、神からの断絶の中に人間を固定化するものではなく、むしろ、神との、そして人々との和解、交わり、連帯に罪人たちを解放してゆくものです。それまでは隣人との交際を避けていたサマリヤの婦人が、自分の方から、積極的に人々の出会いを求め、自分の罪からの解放の体験、それは、イエスの復活を予告する体験であり、新しく発見した復活者たちの交わりを分かち合ってゆく行為なのです。ルカ 渡辺幹夫

## 四 旬 節 第 四 主 日 (ヨハネ9：1-41)

四旬節第四主日を迎え、わたしたちは回心し再び新しい者となって主の愛に満ちた招きに応えます。福音は世の光であるイエスに出会わせてくれます。生まれつき盲目の人がイエスに癒していただく信じられない話を述べています。イエスは弟子たちに仰せになります。“わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。だれも働くことのできない夜が来る。わたしは、世にいる間、世の光である”と。

生まれつきの盲人が癒していただく様子の叙述は福音記者ヨハネの傑作の一つです。その内的な、人の心を打つ力強さは、この盲人が見えるようになっていく過程と人の子イエスを信じる者となっていく過程の描写にあります。イエスはこの人が生まれつき盲人なのは“神の業がこの人に現れるためである。”と仰せになりこの奇跡の目的を明示されます。初めの部分で盲人は視力を戻していただきますが、その後の部分は全てこの人が霊的に神を見ることができるようになっていく道筋を記しています。彼は初めイエスを“人”と呼び、それから“預言者”、“神のもとから来た人”、最後に“主”と呼んでいます。彼は自ら喜んで信じたい思いがあったので、イエスを正しく認識することができました。心を開き、イエスを信じたいと思い“主よ、その方はどんな人ですか”と尋ねます。この態度は頑固な悪意あるファリサイ人とは対照的です。イエスが行われた癒しの奇跡を前にして、ファリサイ人は信じようとはせず、盲人とその両親に質問を浴びせ続け、イエスを罪人呼ばわりします。ついに彼らはこの癒された人を外に追い出し、この癒しの事実も目の前から消し去りました。ただイエスがこれを安息日に行い、彼らを驚かせたことだけを取り沙汰しています。

盲人の視力が回復し苦しみから解放されるのに時間はかかりませんでした。この人の光、神への心の歩みは一步、一步とゆっくりしたものでした。イエスという人が癒してくれたというぼんやりした認識から始まって、だんだんと霊的な恵みによって理解を深め、最終的に大胆に“主”であると宣言します。このときこの人は健全に目が見えている人が見えないようになることを理解しました。この奇跡を通してイエスのご自分が世の光であることを宣言されます。わたしたちは皆霊的に見えない目を持って生れてきますが洗礼の秘跡によって霊的な目は開かれ、聖体によってよりはっきり見えるようにしていただきます。今の時代を生きるわたしたちは、この世で出会う様々の災難や不幸な出来事、不条理なこと、苦しみや悲しみ、またそれに伴う労苦は、神である主が与えてくださる霊的に意味深いものであることを認識すべきです。見えるようにしていただいたこの人は終わりには光の中の人となり、みんなの前でキリストをはっきり宣言しました。同様に洗礼の恵みをいただいているわたしたちは、光である方を世にはっきり示すように呼ばれています。この霊的召命のために逆らいを受けるなら、喜びましょう。キリストご自身こそわたしたちの証言、言動によっていつも逆らいを受けておられる方なのですから。

(Sr. Paulina)

「おしくらまんじゅうおされて泣くな、おしくらまんじゅうおされて泣くな」高い歓声とテレビの画面からはみ出しそうな満面の笑顔。幼稚園でしょうか保育園でしょうか真っ赤なほっぺの十数人の子どもたちが、背中を合わせ足をふんばって押し合いへし合いの映像です。

アナウンサーの声も明るくはずんでいます。「皆さんも子どもの頃に一度はしたことがあるでしょう わたしも昔やりましたよ でも これからお届けするのは子どもたちのおしくらまんじゅうではなく このおしくらまんじゅうを朝の体操に取り入れている会社があるというので 取材しました」。

興味をひかれてみていると、薄暗い広い空間に大がかりな機械らしきものがポツンポツンと置かれていて、その前に人が一人ずつ立っていて作業をしている様子。 どうやら町工場のような感じです。

朝礼の場面です。 社長さんがいきなり言いました。「三人か四人でかたまってください 今からおしくらまんじゅうをしましょう」。

写しだされた社員の皆さんの表情と云ったら、「え?」「何?」戸惑い、呆然、啞然、・・・ほんとうにおかしかったです。

しかし社長の提言です。 しかたなくでしょうか、もそもそとぐずぐずと三人四人五人とかたまって、恐る恐る背中をくっつけて腕を組み、遠慮深く行儀よくヨイショヨイショと押し合いを始めました。

暫くすると、どこにどんなスイッチが入ったのでしょうか動きは大きく躍動的になり、どの人もすっかり本腰を入れています。

やがては破顔一笑そのままに、笑顔がはじけて大声になって、勢い余って転がってしまったりして、立派なおしくらまんじゅうのかたまりができあがっていました。

社長さんの話によると、一人ひとりが自分の持ち場で黙々と自分の仕事をこなすという雰囲気をもっと明るく一体のものにできないかと考えていて、おしくらまんじゅうを朝の体操に取り入れようと思いついたそうです。

結果は案の定で、それぞれがそれぞれを気遣うようになり、団結が生まれ家族のような仲間意識が出てきて、会議などでも皆いきいきと発言するようになったとか。

「これは新しいコミュニケーションです」と社長さんは胸を張ってうれしそうでした。



番組のアナウンサーも何ということでしょう。スタジオで互いに背中を合わせて笑い声をあげています。そこで、見ているこちらも遅れをとらじと立ち上がり、夫と二人で背中をくっつけて押し合って視聴者参加と相成りました。

「おしくらまんじゅうおされて泣くな」と声を張り上げてはみたものの、押されて泣くほどの力も及ばずなのですが、愉快的な朝のひとときではありました。

「おしくらまんじゅう」の効力を私は心の底から納得します。

「寒いとき あったかくなるよ！」と子どもたちはくちぐちに言っていました。どうしてどうしてこれは冬山の遭難では命を救うことさえあるのです。

体をくっつけ合い摩擦し合って、互いの体温で互いの命を守るのです。何という頼もしいおしくらまんじゅうではありませんか。

昔のことになりますが、豚の仔がたくさん並んで団子ようになって押し合って親豚の乳を飲む恰好に、妙に心奪われ深く感動したことがあります。

その感動はおしくらまんじゅうの躍動的な歓びとどこかで通じているようなのです。一言でいえば哺乳類っていいなあということでしょうか。動物の仔はほんとうによく体を寄せ合います。暖かな体温が触れ合うのを私は大いによしと思うわけです。

イスラエルと名づけられたヤコブは、神さまと取っ組み合ってぶつかってひとつの成就を体験します。痛い思いもしたでしょうが、きっと最後は身も心もおしくらまんじゅうのようであったでしょうと、今あらためて思ってみたりします。

そして主イエズスもご自分の手を差しのべられます。時に両手をもって人に触れておられます。人々もイエズスに触っていただきたいと願います。

また、何が何でも必死の思いで衣に触れた者を、イエズスは必ず探し出して知ってくださり祝福してくださるのです。

主イエズスと私の親しさも、笑顔を生み、他を思いやる心を生み、家族のような親しさを生み、いのちを救うまでの力を生む、おしくらまんじゅうのようでありたいと、今、全身を満たす暖かさを感じながら思うのです。

# いのちの言葉 3月

わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、  
あなたがたも、わたしの掟を守るなら、  
わたしの愛にとどまっていることになる。

(ヨハネ 15・10)

ヨハネ福音書に出てくるこのみ言葉は、イエスが最後の晩餐の後、使徒たちに語られた内容豊かな話の一部です。(\*1) ここではイエスの掟を守ることによって、私たちが愛の内にとどまることが示されています。これに先立つ部分で、イエスは使徒たちに向かって「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る」(\*2)と言われ、私たちがイエスの掟を守るのは、イエスへの愛が根源にあって、それが出発点になっているべきことが明らかにされています。

このように、イエスを愛することと、彼の掟を守ることは、相互に深く結びついています。イエスへの愛ゆえに、私たちは彼の言葉をより忠実に生きるよう押し動かされ、またみ言葉を生きることによって、私たちは愛の内にとどまり、イエスへのより大きな愛を抱くことができるようになるのです。

わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

「わたしの愛にとどまる」。イエスはこの言葉を通して、何をおっしゃりたかったのでしょうか？

ご自分の掟を守ることは、私たちがイエスの真の友であることのしるし、証しであり、彼も私たちの友となってくださるための条件であることを、お伝えになりたかったに違いありません。

でもそれだけでなく、イエスはもう一つのことを伝えようとされています。それは、イエスの掟を守るなら、私たちの内にイエスご自身の愛を培うことになるということです。地上でのイエスの全生涯を通して、私たちが知ることのできるイエスご自身の愛し方、それをイエスは私たちにも授けてくださるのです。この愛によってこそイエスは御父と一つでおられ、また、この愛に押し動かされて、イエスはご自分のあらゆる兄弟、特により小さな者、弱い者、疎外されている者と一体になられました。

イエスの愛は、魂や肉体のあらゆる傷を癒し、一人ひとりの心に平和と喜びをもたらし、人々の間に兄弟愛と一致を築きながら、あらゆる分裂を乗り越える愛でした。

もし、イエスの言葉を実行するなら、イエスご自身が私たちの内で生きてくださり、私たちをご自分の愛の道具としてくださるでしょう。

わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。



では、今月のいのちの言葉をどのように生きたらよいでしょうか。

このみ言葉が私たちに勧めることを心に留め、そこにしっかり目標を定めましょう。すなわち、掟を最低限、機械的・表面的に守ることで満足せず、キリスト者として寛大に愛を生きることです。聖人たちはこのように生き、それゆえ彼らは生きた神のみ言葉であったのです。

今月は、イエスのみ言葉、彼の掟の中から一つを選んで、それを生活の中で実行するように努めましょう。中でも、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(\*3)というイエスの新しい掟は、イエスのみ言葉全体を要約するものであり、その中心でもあるので、このみ言葉を徹底的に生きるようにしましょう。

キアラ・ルービック

\*1 ヨハネ13・31~17・26 参照

\*2 ヨハネ14・15

\*3 ヨハネ15・12参照

\*今月の言葉は1994年5月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

#### ●お知らせ

##### 一日マリアポリ

と き : 3月21日(金・祝) 10:30~16:00

と ころ : 聖イグナチオ教会・ヨゼフホール(四ツ谷駅から徒歩1分)

##### いのちの言葉の集い

関東 3月9日(日) 13:30~ 神奈川 加リツ藤沢教会 204号室  
(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、藤沢、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 3月9日(日) 14:00~ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」

##### キアラの記念ミサ

長崎 3月15日(土) 14:00~16:30 長崎フォコラーレ・センター

##### 沖縄のマリアポリ

と き : 4月5日(土) 9:30受付 10:00開始  
6日(日) 17:00まで

と ころ : 与那原聖クララ修道院・祈りの家(沖縄県与那原町上与那原 3090-4)

問い合わせ先: 赤嶺 TEL/FAX (098) 850-2355

e-mail [akaminef@ray.ocn.ne.jp](mailto:akaminef@ray.ocn.ne.jp)

詳細は各フォコラーレ・センターまで。

#### 連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: [tokyofocfem@ybb.ne.jp](mailto:tokyofocfem@ybb.ne.jp)

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.cocan.jp/>

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話（78）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### あなた方を牢屋に入れたい(1)

十字架のヨハネは、二度牢屋に入りました。三度目は、牢屋に入れられそうになりました。最初の二度、彼を捕らえた人々は、修道士たちでした。三度目に彼をひどく脅したのは、司祭で、イニェスタ・エルナンドというセゴビア教区の司教代理でした。でもなぜ、彼はヨハネを脅したのでしょうか。

母テレジアがセゴビアの修道院を創立しようとした時、旅の道連れとして、十字架のヨハネ神父と、最初のサン・ホセ修道院の親切な付司祭、フリアン・デ・アビラを連れて行きました。二人は互いにかなり異なった性格ですが、いいコンビです。

聖女には、セゴビアの司教の口約束だけがあります。1574年の聖ヨゼフの祝日に修道院は創立されました。最初のミサはフリアン・デ・アビラが、第二のミサは十字架のヨハネが行いました（当時は、共同司式は行われていませんでした）。皆が、二つのミサによる修道院創立に満足していました。その時、司教の甥で、司教座聖堂参事会員のホアン・デ・オロスコ・イ・コバルビアスがやってきました。すべてが非常に美しく整えられているのを見て、ミサを捧げることができるかどうか尋ねました。聖女は、「もちろん、あなた様は、それによってお恵みを授かることでしょう」と答えました。この善良な司教座聖堂参事会員は、後年、まずシチリアの司教、後にスペインのグアディックスの司教になったのですが、彼が喜びと敬虔な心をもってミサを捧げていたちょうどその時、気難しくて有名な司教代理がやってきました。姿が現れる前から、彼の怒りの声が聞こえました。「今までだれも見たことがないほど、彼は怒り狂っていました」とフリアン・デ・アビラは言っています。彼は、祭壇にいた司教座聖堂参事会員に面と向かい、彼にこう言いました。「まだミサを捧げていないのなら、いいだろう」。 （続く）



# ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（174）



## 貧しい人の宝

貧しい人は、まさに私たちに恩返しできないがゆえに、与えるべき宝を持っているのです。彼らのためにしたことに対して、私たちに何も支払うことができないことによって、彼らは私たちに、内的自由や無私の心や寛大さや真の心遣いを呼び起こします。イエスは言います。「宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。そうすれば、その人たちは、お返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる」(ルカ 14・13-14)。

イエスが語っているお返しとは、霊的なものです。それは、私たちが心から望んでいる神の喜び、平和、愛です。これらのものを、あの世だけでなく、すでに今ここで、貧しい人が私たちに与えてくれるのです。

(0820)

## 選ばれていること

イエスは、神によって受け入れられています。というより、神によって選ばれています。イエスは選ばれた者なのです。永遠の昔から神は、最愛の子を、この世の救い主となるよう選ばれたのです。選ばれることは、ユニークな仕方で知られ、愛されること、ひき抜かれることであり、特別な関係を表しています。私たちの社会では、選ばれることは、常に、他の人々は選ばれないということを意味します。けれども、これは、神にとって真理ではありません。神は、私たちが選ばれた者であることを、私たちに啓示するために、我が子を選ばれます。

神の国においては、いかなる競争もライバル関係もありません。神の子は、選ばれていることを、私たちと共に分かち合っています。神の国においては、各々がかけがえのない者、ユニークな者なのです。また各々は、他者が選ばれた者であることを見、それを喜ぶ目が与えられています。

(0713)

(九里 彰訳)

# 跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

## ピーター・チュング新司教へのインタビュー

2014年1月17日

2月4日、韓国の跣足カルメル修道会司祭、総長顧問のピーター・チュング神父は司教に叙階されました。彼は既にソウル教区で補佐司教として新しい任務に就くためソウル市にいます。カルメル会の雑誌“La Obra Máxima”のこのインタビューによって、チュング新司教が、教会の奉仕職というこの新たな挑戦にどのように応えようとしているかを、もっとよく知ることができるでしょう。

—ピーター神父、聖座から司教任命の知らせを受けたときどう思いましたか？

「私はこの任命を受け取った時から、幾晩も動揺と緊張のため眠れませんでした（心は澄んで意識もはっきりしていましたが）。これは、神が私の貧しい人生に介入されたのだとはっきり分かったからです。」

—司教の人生と任務はどうあるべきだと思いますか？今の教会はどんなタイプの司教を必要としていますか？

「私は司教の人生と任務がどうあるべきか、今までその必要がなかったので、考えたことはありませんでした。しかし、これからはどうするかは、私次第でしょう。私は単純に、司教の任務は、教会の事柄に関して様々な人々と多くの会議を行なうかなりきついものだと思います。今の教会と世界にとって必要なのは、多分、口数が少なく、弱者や助けを最も必要とする人々の声により多く耳を傾けてゆく司教でしょう。」





—あなたの任命は、私たち跣足カルメル修道会全員にとって大変喜ばしいことでしたが、跣足カルメル会士として、神が呼ばれたこの新しい召し出しに対し、あなたは何をもたらすことができますか？

「今私の心を捕えているのはまさにそのことです。ソウル教区は、多分、より霊的な側面とその貢献を、カルメル会士の司教に期待していると思います。イエスの聖テレジアの弟子として、外的な魅惑的な物にたやすく振り回されてしまう現代の人々に向けて、霊的な価値の極みを聖テレジアの次の言葉を思い起こしながら述べ伝えていきたいと思っています。『すべては過ぎ去る。神のみ変わることがない。神のみで足りる。』」

—私たちは、今、韓国の教会で何が起きているのか良く知りません。あなたの教会が直面している一番大きな挑戦は、何ですか？

「現代世界がますますグローバル化しているという意識が高まっています。それは場合によっては、過度であるとも感じています。韓国教会のチャレンジは、世界やヨーロッパの教会が立ち向かっている事柄とあまり違いはありません。そのいくつかを述べると、物質主義、個人主義、利己主義、過度の浪費、教会への無関心、修道者や司祭への召命の不足などです。」



\*\*\*\*\*絵本のための小さなおはなし\*\*\*\*\*

## 「キリストの御血の絵のお話」



純粹そのものという顔形をした、16歳の女の子は、長い黒いまつげを濡らして泣いていました。春が来て、かわいがっていた白鳥がついに北へ帰ってしまったからです。白鳥は、とても愛情深い大きな賢い鳥。えさをとったりばらばらになって眠ったりしたあと、家族に再会すると、両翼を広げて胸を水の上にはりださせ、長い、白い首をずっと先へ伸ばして、澄んだ高い鳴き声をたてながら、うれしくてたまらないという様子で互いに再会を喜び合います。

その女の子のかわいがっていた白鳥はいたずらっ子の人懐こい大きな男の子。岸の上で、女の子の背丈よりも高く、首を伸ばして両翼をいっぱい広げて、家族にするような挨拶をして、彼女を驚かせたことがあります。白鳥は得意そうにくちばしを開けて笑いました。めったに笑わない内気な女の子も、その時は声をたてて笑いました。

その冬、この白鳥との思い出。女の子は、いつも大きな犬が恐かったのです。ある日、大きな黒いオオカミみたいな犬が一匹通りかかり、吠えかかった時、女の子はもうおしまいだと思って目を閉じてしゃがみこみました。そこへ、いつもの白鳥が、はげしい弓の弦の羽音を立てて舞い降りて、大きい白い胸で女の子をかばいました。

犬の牙が白鳥に触れ、さっと血潮が飛び散りました。雪のような白い鳥の胸に赤いきらきらする血。それは全人類のために身を投げ出したキリストの御血。御血は、流された瞬間、時間を超えて、空間を超えて、宇宙のあらゆる時間とあらゆる場所に飛び散ったのです。

女の子は、白鳥の胸にそっとハンカチを当てて、血を拭きとってやりました。いつまでも赤いままの不思議な血。2000年前から変わらない御血。大事に持っていて、それを見るたびに涙があふれるのでした。「帰ってきてね」と女の子はハンカチに顔をうずめてささやきます。「きつとよ」そして白鳥は冬になったら必ず、南へ帰ってくるのです。そしてキリストも。



# カルメル会の企画案内



# 上野毛霊性センター ～ ‘15年3月

黙想企画 \*\* 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

## 1. 祭日のミサに参加するために

**【聖週間】** チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。  
2014年 4月17日(水)～20日(日)《講話なし、各食事つき》

**【クリスマス】** チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2014年12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》

## 2. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

9月11日	聖体の秘跡	ベルナルド神父
10月9日	人となられたみことば	古川利雅神父
11月13日	神に生かされて貧しさを生きる	中川博道神父
12月4日	無原罪のマリア	渡辺幹夫神父
2015年		
3月5日	洗礼と主の晩餐	福田正範神父

## 3. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時～16時) 昼食つき

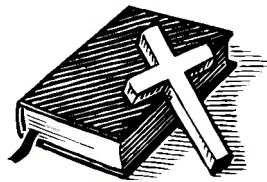
お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

4月11日	ヘルマン・コーヘン	古川利雅神父
7月4日	カルメル山の聖母	中川博道神父
10月31日	永遠の命への憧れ 聖テレジア	渡辺幹夫神父
2015年		
1月16日	聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)	福田正範神父

## 4. 奉献生活者の為の黙想会

8月1日(金)18時～	8月10日(日)	福田正範神父
8月15日(金)18時～	8月24日(日)	古川利雅神父
10月10日(金)18時～	10月19日(日)	福田正範神父
12月27日(土)18時～	2015年1月5日(月)	福田正範神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士  
4月25日(金) 18時～27日(日) 16時  
11月22日(土) 15時～24日(月・振休) 16時
6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士  
9月13日(土) 15時～15日(月・振休) 16時
7. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)  
初日の夕食は済ませてご参加下さい。  
5月23日(金) 20時～25日(日) 16時「聖霊と祈り」  
11月 1日(金) 20時～ 3日(月) 16時「慈しみの愛と祈り」



※) 注 2014～15年の予定は、今後変更の可能性があります。

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、  
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



2014年

## カルメル会四旬節講話シリーズ

場所: カトリック上野毛教会聖堂(東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分)

世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会(TEL.03-3704-2171)

日時: 下記の各日曜日 午後2:30開始 講話後主日ミサ

共通テーマ: 「イエスの聖テレジアのカリスマとその広がり」

3月 9日

「テレジアの信仰共同体の中での影響」

渡辺幹夫(カルメル修道会)

3月16日

「二人のテレジア アピラのテレサとリジューのテレーズ」

伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

3月23日

「テレジアと出会った十字架のヨハネ」

丸里 彰(カルメル修道会)

3月30日

「テレジア的カルメルの中の三位一体のエリザベト」

松田浩一(カルメル修道会)

4月 6日

「エディット・シュタインとテレジア—出会いと霊的絆」

須沢かおり(ノートルダム清心女子大学教授)

## 聖週間の典礼に参加するための黙想会

---

聖なる過ぎ越しの三日間の典礼に参加し、黙想しましょう。

\*日時: 4月17日(木)夕食~20日(日)朝食後 10時まで

17日(木)は、午後3時より入室できます

\*費用: 一泊¥5000(一泊から可)

\*お問合せ・お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話: 03-5706-7355 FAX: 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp

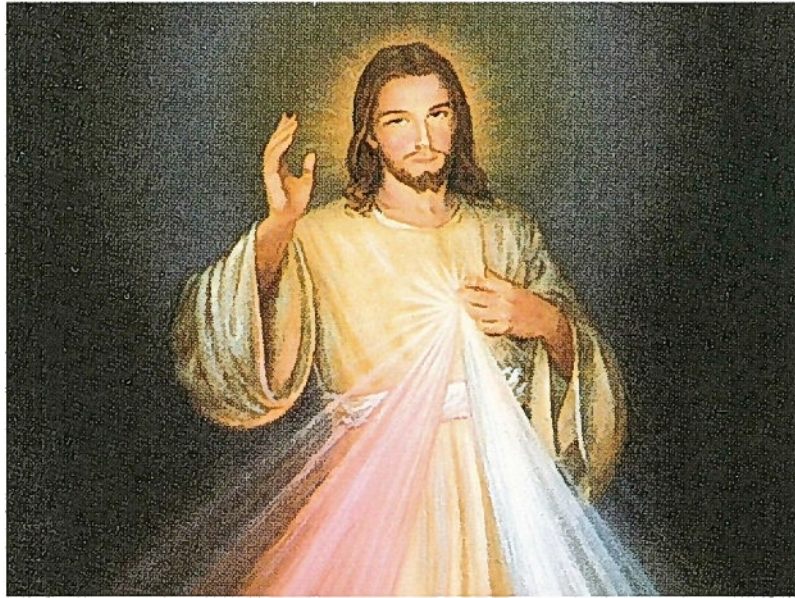
### \*\*\*\*\*上野毛教会聖週間の典礼ご案内\*\*\*\*\*

4月17日	聖木曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:30	主の晩餐の夕べのミサ 洗足式
4月18日	聖金曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		15:00	十字架の道行
		19:30	主の受難
4月19日	聖土曜日	7:00	読書の祈り・朝の祈り
		18:30	復活の聖なる徹夜祭 洗礼式
4月20日	復活の主日	7:00	8:30 10:30 18:00



# カルメル青年黙想会

## 生きるイエスを探して



- 日時 : 4月25日(金) 18時 ~ 27日(日) 16時  
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)  
対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)  
定員 : 20名  
費用 : 一般 10,000円      学生 7,000円  
締切 : 4月18日(金) <必着>  
指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)  
電話: 03(5706)7355  
FAX: 03(3704)1789  
E-mail: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)



特別黙想会 《わたしは神をみたい》

## 聖霊 と 祈り

2014年5月23日（金）20時～25日（日）16時

わたしは父が約束されたものをあなたがたに送る。

高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。

（ルカ 24・49）



神は聖霊の賜物によって かなり頻繁に

そして深く介入されるので その人は 神とほとんど常に  
関わっていることができるようになります

『わたしは神をみたい』

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ、ocd—

- 指導： 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
  - 持参品： 新約聖書、『いのりの道—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師と共に』  
聖母文庫（黙想の家で購入できます。）筆記用具、パジャマ
  - 参加費：
  - 場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）  
158 - 0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 Tel. 03-5706-7355
- 申し込み方法 FAX 03-3704-1789  
Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)  
または、ハガキにてお申し込みください。



## 講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



## カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30～12:00≫

夜のクラス ≪19:15～20:45≫

3月7日

## 生ける神との出会いを探して

— 靈性神学入門講座 / キリスト教入門講座 —

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:00 のミサ後～12:00≫

夜のクラス ≪19:30～21:00≫

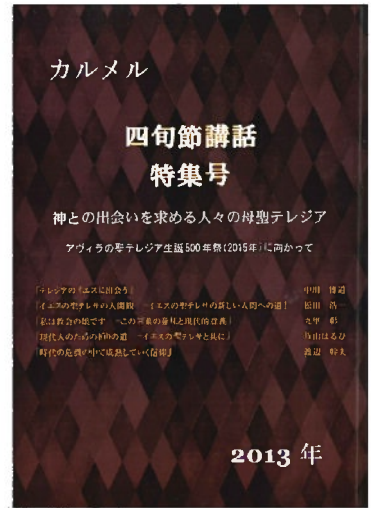
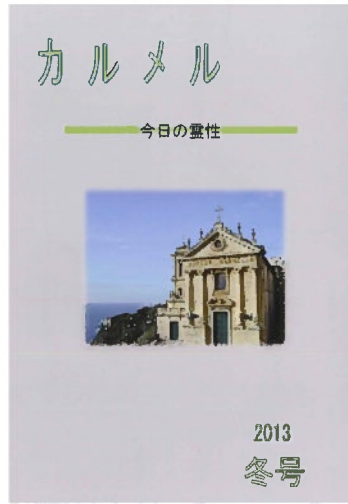
21	3月14日	「秘跡」(2)
----	-------	---------

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

「カルメル」  
今日の靈性・冬号  
四旬節講話特集号



キリストの慈悲によってベルナルディーノ・  
デ・メンドーサを煉獄から救った聖テレジア



カルメル 2013 特集号

2013 冬 No.351

「神との出会いを求める人々の母  
聖テレジア」

砂漠の修道院に入る (7)	奥村 一郎	56
キリスト教と革新(確信) — 奥村神父とわたくし (2)	谷口 正子	48
西行と芭蕉の靈性 (2) — 「おくのほそ道」の旅から (1)	田畑 邦治	41
修道院生活 春夏秋冬 (10)	高橋 重幸	35
人を育む靈性 — エディット・シュタインの教育論 (3)	須沢 かおり	28
生活のなかのカルメル 「花びらをまく」 — H々の苦勞をささげる	中山 眞里	21
修道院の窓から (2) — 朝	原 造	17
信仰年 — 聖テレジアに導かれて (4)	伊 從 信子	9
信仰を生きる (4) — アピラの聖テレジアの信仰理解	九 里 彰	3
● 目次 ●		
現代人のための祈りの道 — イエスの聖テレジアと共に	片山はるひ	37
時代の危機の中で成熟していく信仰	渡辺 幹夫	51
「私は教会の娘です」 — この言葉の意味と現代的意義	九 里 彰	24
イエスの聖テレジアの人間観 — イエスの聖テレジアの新しい人間への道	松田 浩一	12
● 目次 ●		
テレジアのイエスに出会う	中川 博道	2

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円(＋送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】＋送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

## 2014年～2015年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

### 【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	1月 11日(土)～ 12日(日)	念祷生活	今泉健神父
	5月 24日(土)～ 25日(日)	キリスト教の人間共同体	松田浩一神父
	7月 12日(土)～ 13日(日)	聖母マリア	今泉健神父
	9月 6日(土)～ 7日(日)	神の慈しみの歌	松田浩一神父
	11月 1日(土)～ 2日(日)	死についての黙想	今泉健神父
2015年	1月 10日(土)～ 11日(日)	神の栄光・生きている人間	松田浩一神父

### 【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)			
2014年	2月 1日(土)		九里彰神父
	4月 5日(土)		九里彰神父
	6月 7日(土)		九里彰神父
	9月 13日(土)		九里彰神父
	11月 29日(土)		九里彰神父
2015年	2月 7日(土)		九里彰神父

### 【水曜の黙想】

・ 1日 (午前10時～午後4時)			
2014年	1月 15日(水)	キリスト信者の祈りのカテキズム	松田浩一神父
	2月 5日(水)	イエスの奇跡	今泉健神父
	3月 26日(水)	四旬節の心	松田浩一神父
	4月 16日(水)	キリストの受難と死	今泉健神父
	5月 14日(水)	キリストの教え(神の救いの御計画)	松田浩一神父
	6月 18日(水)	イエスの御心を思う	今泉健神父
	7月 23日(水)	キリストの教え(神の救いへの参加)	松田浩一神父
	9月 17日(水)	福音的な小さい道	今泉健神父
	10月 8日(水)	キリストの教え(神と共に歩む)	松田浩一神父
	11月 12日(水)	死者の月に祈る	今泉健神父
	12月 17日(水)	テレサと祈り	松田浩一神父
2015年	1月 14日(水)	神の国は近づいた	今泉健神父
	2月 11日(水)	キリストの教え(神と人間の尊厳)	松田浩一神父
	3月 25日(水)	神のお告げ	今泉健神父

### 【四旬節の黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	3月 8日(土)～ 3月 9日(日)	十字架と信仰	九里彰神父
	3月 22日(土)～ 3月 23日(日)	人間となった神の子へのキリストの信仰	松田浩一神父
2015年	2月 28日(土)～ 3月 1日(日)		
	3月 28日(土)～ 3月 29日(日)		

### 【待降節の黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	12月 13日(土)～ 12月 14日(日)	神の子の誕生	九里彰神父

### 【聖テレーズの黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	9月 30日(火)～ 10月 1日(水)		伊従信子師

### 【キリスト教霊的同伴】

・ 3泊4日 (午後8時～午後3時) 限定10人			
2014年	5月 3日(土)～ 5月 6日(火)		松田浩一神父

## 【カルメル青年の集い】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 4月27日(土)～ 4月28日(日)

今泉健神父

11月23日(土)～11月24日(日)

今泉健神父

## 【一般のためのカルメルの霊性入門】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 2月8日(土)～ 2月9日(日) 「イエスの聖テレサ的カルメル霊性 NO. 2」

松田浩一神父

10月14日(火)～10月15日(水) イエスのテレサ生誕500周年開始

松田浩一神父

## 【奉献生活者の黙想】

(午後5時～午後9時)

2014年 7月31日(木)～ 8月9日(土)

松田浩一神父

8月19日(火)～ 8月29日(金)

今泉健神父

12月27日(土)～ 1月5日(月)

松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

### 【聖週間を祈る】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月16日(木)～ 4月20日(日)

{講話なし、各食事つき}

### 【クリスマス】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(水)～12月25日(木)

{講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、

その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



## イエスの聖テレサ列福 400 年記念講話と ミサへのお誘い

場所 : 男子跣足カルメル修道会宇治修道院 (京都)

日時 : 4月26日(土) PM1:00~PM4:00まで

講話 : カトリック教会内でのイエスの聖テレサ  
(アヴィラの聖テレジア)の教会博士への歩み

参加者 : イエスの聖テレサに関心のある人

スケジュール

PM1:00~2:00 講話<資料を配布します>  
PM2:10~3:10 ミサ  
PM3:15~4:00 交流会<お茶を用意します>

費用 : 自由献金

講話 : 松田浩一 神父 (カルメル会士)



男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457

 [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

### 【開催日】

- |   |       |                  |
|---|-------|------------------|
| ① | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土)  |
| ② |       | 2月21日(金)～22日(土)  |
| ③ |       | 3月28日(金)～29日(土)  |
| ④ |       | 6月 6日(金)～ 7日(土)  |
| ⑤ |       | 7月 4日(金)～ 5日(土)  |
| ⑥ |       | 9月12日(金)～13日(土)  |
| ⑦ |       | 10月 3日(金)～ 4日(土) |
| ⑧ |       | 11月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑨ |       | 12月 6日(金)～ 7日(土) |



(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457  
 E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

## 2014年度 名古屋霊性センター 《都会の中の一静修》

2003年から始まりました《都会の中の一静修》は、今年で12年目を迎えることになりました。

カルメル会は、今その聖女、イエスの聖テレサ（アヴィラの聖テレジア）の生誕500年（2015年）を祝おうとしています。そのために、世界のカルメル会は聖女の著作を読み返しながら、その霊性を味わおうとしています。

幸いなことに、日本のカルメル会も、昨年および一昨年の四旬節講話で、聖女の霊性をいろいろな視点で味わい深めて、参りました。それらを振り返りながら、いろいろな切口で、聖女の霊性の中に浮かび上がるカルメルの霊性、さらにはキリスト者としての霊性を味わい深めることができたらと願っております。

### 《2014年度の年間テーマ》

「聖テレジア（アヴィラ）の私たちへのメッセージ」

—2015年：生誕500年に向かって—

- 第1回静修 1月13日（月・祝） 『テレジアが出会ったイエスを訪ねて』  
中川博道神父（上野毛修道院）
- 第2回静修 3月1日（土） 『靈魂の城』  
今泉健神父（宇治修道院）
- 第3回静修 5月31日（土）＊ テーマ未定  
古川利雅神父（上野毛修道院）
- 第4回静修 7月21日（月・祝） 『私は、あなたのために生まれた』：  
人間の召命に生きる 松田浩一神父（宇治修道院）
- 第5回静修 9月予定
- 第6回静修 11月3日（月・祝） 『テレジアと出会った十字架の聖ヨハネ』  
九里彰神父（本部修道院）

- \* 時間 AM10:00～PM4:00
- \* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分  
聖テレジア幼稚園隣接)
- \* 参加費 1,000円
- \* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当など
- \* 定員 約30名

- \* プログラム
  - 10:00～ 祈り・導入・黙想
  - 10:30～ 講話(1)  
黙想・赦しの秘跡または面接
  - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
  - 12:15～ 昼食
  - 13:00～ 黙想・赦しの秘跡または面接
  - 13:30～ 講話(2)
  - 14:45～ ミサ
  - 15:30～ 茶話会・分かち合い
  - 16:00～ 終了予定

☞申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELなどを記載の上、  
(信徒の方は所属教会も記入)開催日の3日前までに、下記へご送付ください。  
なお、日比野教会で葬儀などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆カルメル会日比野修道院

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17  
FAX 052-671-1825

☆ 問い合わせ先

小林 TEL052-701-3685

## 霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 276 - 7788



## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



# カルメル会出版物のご案内



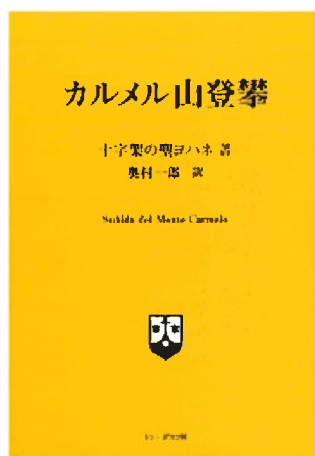
「神のさすらい人」  
アビラの聖テレサ  
マルセル・オクレール著  
福岡カルメル会訳



「創立史」  
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」  
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」  
十字架の聖ヨハネ著  
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
サダナ瞑想  
フォコラーレ  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

### 2014年予定

- |    |                      |                     |
|----|----------------------|---------------------|
| K2 | 3/22 (土) -3/28 (金)   | 東京・小金井・聖霊会          |
| S1 | 3/30 (日) -4/5 (土)    | 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会 |
| N2 | 4/30 (水) -5/6 (火)    | 滋賀唐崎・ノートルダム         |
| K3 | 6/14 (土) -6/20 (金)   | 東京・小金井・聖霊会          |
| T1 | 7/25 (金) -7/31 (木)   | 兵庫西宮・女子トラピスチヌ       |
| M2 | 9/9 (火) -9/15 (月)    | 宝塚売布・女子ご受難会         |
| K4 | 9/27 (土) -10/3 (金)   | 東京・小金井・聖霊会          |
| S2 | 10/5 (日) -10/11 (土)  | 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会 |
| N3 | 10/26 (日) -11/1 (土)  | 滋賀唐崎・ノートルダム         |
| K5 | 11/29 (土) -12/05 (金) | 東京・小金井・聖霊会          |

## 真命山 2014年 - 祈りの集いのご案内

### 真命山の霊性



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから 祈り  
陽の沈むところまで



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を 分つ 交わり

### 祈りの集い（午前10時～午後3時）

1月 9日	天使からのお告げをお受けになった時の聖母マリアの祈り
2月13日	エリザベットを訪れられた時の聖母マリアの祈り
3月13日	神の子イエスをお産みになった時の聖母マリアの祈り
4月10日	羊飼いたちや博士たちの訪問をお受けになった時の聖母マリアの祈り
5月 8日	聖ヨセフと共に神殿に登ぼり、イエス様をお捧げになった時の聖母マリアの祈り
6月12日	聖ヨセフと共にエジプトへ逃れられた時の聖母マリアの祈り
7月10日	聖ヨセフと共に神殿でイエスを見つけられた時の聖母マリアの祈り
8月	休み
9月11日	ナザレで聖ヨセフとイエスとご一緒の時の聖母マリアの祈り
10月 9日	イエスを探しに行かれた時の聖母マリアの祈り
11月13日	イエスの十字架のもとでの聖母マリアの祈り
12月11日	イエスの弟子たちと共に祈られた時の聖母マリアの祈り

指導者  
フランコ・ソットコルノラ神父  
(真命山院長)  
ダニエレ サルティ・サルトリ  
神父  
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先  
865-0133  
熊本県玉名郡和水町1391-7  
真命山諸宗教対話・霊性交流センター  
TEL 0968-85-3100  
Fax 0968-85-3186  
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。  
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
 どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
 キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、  
 9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、  
 各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2014年度のテーマ: 超越理解と理性の自己発見  
 ー II 近世・近代・現代

「中世: 哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)  
 [中世末期]

04/05,04/12,04/26,05/17,05/24,05/31,06/14,06/28,07/05,07/12,07/26,09/06,09/13,  
 09/27,10/18,10/25,11/08,11/15,11/29,12/06,12/20, 2015年 01/10,01/17,01/24,01/31,02/07

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
 どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
 どなたでも。但し祝日、8月5日は休み。

・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。

どなたでも。但し祝日、4月30日、7月30日、8月全体、12月24日は休み。

・「通う霊操」8月23日(土)～8月31日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。  
 4月5日、5月24日、6月14日、7月5日、8月16日、9月13日、10月18日、11月15日、12月6日、  
 2015年1月10日、2月7日、3月14日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●黙想会

[1泊6,600/7,000円程度

[関東]

2014年

05月10日(土)10時～11日(日)14時(上石神井)、

10月11日(土)10時～12日(日)14時(東村山)

11月22日(土)10時～23日(日)14時(東村山)、

2015年

02月28日(土)10時～3月1日(日)14時(上石神井)。

[関西]

10月4日(土)13時30分～5日(日)15時(宝塚)。

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 17時30分～20時10分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。

但し祝日、4月17日、4月28日、5月1日、7月31日、8月全体、9月22日、12月29日は休み。

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

04月28日(月)20時30分～5月5日(月)10時

06月20日(金)20時30分～22日(日)10時

08月08日(金)20時30分～15日(金)10時

09月19日(金)20時30分～23日(火)10時

10月31日(金)20時30分～11月3日(月)10時

[関西]

7月30日(水)17時45分～8月5日(火)15時、宝塚市。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。

4月26日(土)、6月28日(土)、10月25日(土)、2015年1月25日(日)

・黙想会(アガペ会会員対象)6月7日(土)10時～8日(日)14時(東村山)、1泊6,600円程度。



## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教  
入門講座 2014年  
日時 毎週金曜日  
18時45分～20時30分

- 3/07 死— その受け入れと克服  
3/08-9 ●黙想会(上石神井)  
3/14  
人生の完成— 神の内に生きる  
3/28  
聖母マリア— 信じる者の原型  
04/11 信仰の道— 人生の意義を問う  
04/18 ○休み(聖金曜日)  
04/20 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内ク  
ルトゥルハイム2階、80人限定)  
04/25 聖書の人間像— 人間の現状と使命  
05/02 ○休み  
05/09 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること  
05/10-11 ●黙想会(上石神井)  
05/16 理性と神認識の道— 世界内存在を通し  
て  
05/23 創造された世界— 人間存在の根拠と自  
然の意味  
05/30 歴史と信仰— 神との出会い  
06/06 内なる神— その「似姿」としての人間  
06/13 新約聖書の神理解— 主なる父  
06/20 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ  
06/27 救い主の役割— 人類の待望  
07/04 神の国— イエスの告げるメッセージ  
07/11 イエスの生き方— 神に遣わされて人に  
仕える  
07/18 イエスのたとえ話— 神の働きを語る  
07/25 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に  
07/26 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内ク  
ルトゥルハイム2階、80人限定)  
08/01,15 ○休み

リーゼンフーバー神父キリスト教  
理解講座 2014年  
日時 第1・3・5火曜日  
18時45分～20時30分

- [信仰の実現]  
3/04  
創造的霊性— 活動における観想  
3/08-9 ●黙想会(上石神井)  
3/18 「聖徒の交わり」— 信仰の内に支え合う  
[基盤]  
04/15 存在の超越と内在 — 神理解への道  
04/20 ◆復活祭ミサ(14時、上智大学内ク  
ルトゥルハイム2階、80人限定)  
04/29, 5/6 ○休み  
05/10-11 ●黙想会(上石神井)  
[人間]  
05/20 人間: 神の似姿 — 理性・自由・信仰  
06/03 救いの歴史 — 時間における意義  
[神]  
06/17 無限への問い — 理性による神理解  
07/01 世界の根源 — 創造的自由・進化・摂理  
07/15 人生のうちに働く超越 — 神経験の多様  
な形  
07/26 ◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80  
人限定)  
7/29 「私は在る」— 旧約における神の自己啓  
示と預言  
08/05 ○休み  
《場所・お問い合わせ》  
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)  
信徒会館3階  
アルペホール TEL 03・3263・4584  
クラウド・リーゼンフーバー神父  
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1  
上智大学SJハウス  
電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)  
Fax 03-3238-5056

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

### ●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

3月15日「神のまなざしに出会う」

4月26日「復活のキリスト」

講話 伊従 信子  
午後2時～午後5時30分位まで、  
講話、祈り、分かち合い。  
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ  
ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044  
練馬区上石神井4-3  
2-35

TEL(03)・3594・2247

FAX(03)・3594・2254

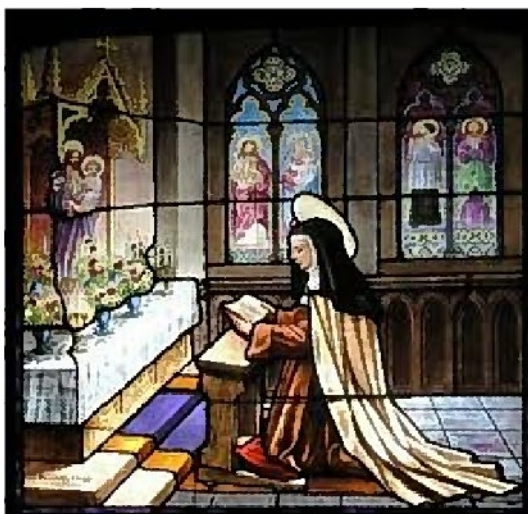
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

ホームページ

<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2014年 4月29日(火)～ 5月7日(水)
- ② 8月14日(木)～ 8月22日(金)
- ③ 10月25日(土)～ 11月2日(日)
- ④ 12月27日(土)～ 2015年1月4日(日)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2014年 2月7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月2日(日)
- ③ 3月21日(金)～ 3月23日(日)
- ④ 6月20日(金)～ 6月22日(日)
- ⑤ 7月18日(金)～ 7月20日(日)
- ⑥ 9月26日(金)～ 9月28日(日)
- ⑦ 11月28日(金)～ 11月30日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2014年 5月26日(月)～ 6月3日(火) 藤原 直達 師 (大阪教区)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
サダナⅡ	3/19(水)17:30- 3/23(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※ Tel & Fax 03-5802-3844
入門 A	4/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナⅠ	4/26(土)17:30- 29(火)16:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
ダイアリー	5/2(金)17:30- 5/6(火)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日 ×2=合計 4日	5/10(土)9:30- 11(土)17:00 5/17(土)9:30- 18(土)17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
ダイアリー	5/28(水)17:30- 6/1(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr 比嘉	
入門 B	6/8(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子

Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナⅠ  
体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ  
Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



2014年

3月21日 (金・祝)

10:30 ~ 16:00

## 1日マリアポリ

ひとりひとりが大切



「ひとりひとりが大切…」聞きなれた言葉かもしれませんが、  
私たちは本当にこう感じているでしょうか。  
時には私たちがいやし、時にはそれに思い悩む「人間関係」、  
これをテーマに分かち合うひとときを過ごしたいと思います。

フォコラーレ

会 場：聖イグナチオ教会・ヨゼフホール（四ツ谷駅から徒歩1分）

連絡先：フォコラーレ（TEL：03-3707-4018 / Email：tokyofocfem@ybb.ne.jp）

※当日は昼食をご持参ください。



# 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00  
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

4月10日(木) 『靈魂の城』第6の住居・第3章  
6月12日(木)、9月11日(木)、11月13日(木)

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。  
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

\* 参加費無料（献金歓迎）

\* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

# 祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



\* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

## 〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編  
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016  
A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

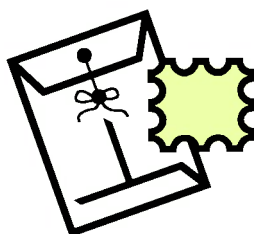
オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*



ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

先日、ひどい目に遭った。といっても自分がまいた種であるが。

午前中、金沢教会の司祭館の図書室でカルメル会士と面談をした。予め何も言っていないかったが、ブラザーが昼食を準備してくれたので、有難くいただき、その後、車で名古屋へもどった。250 km。

名古屋に着いて、駐車場で荷物を降ろした時、マフラーがないのに気づいた。と同時に、マフラーだけでなく、翌日の講話に必要な本や面談の時に使用していた顧問会のノート (very important) などがなくなっているのに気づいた。荷物を部屋に持って行き、ガソリンスタンドでガソリンを入れ、直ちに金沢にもどった。250 km。

教会の前に車を止め、院長に電話すると、だれも図書室には入っていないはずのこと。司祭館に入り、図書室に入ってみると、確かにみな昼前の状態のまま机の上に残されていた。院長に電話しなければ、私が忘れ物をしたことも、金沢にもどったことも、だれにも知られず (神さまには知られているが)、完全犯罪が成立したはずなのに残念なことをした。院長に見送られて、名古屋に再びもどる。250 km。

睡魔と格闘しながら、名古屋に着いたのは、ちょうど 12 時。神に感謝！

(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「4月号」製本日

[3月25日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1 階  
午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171